オレオレ Lua LATEX テンプレートの使い方

易 翠衡 (@yicuiheng) 2021/5/24

1 ビルド方法

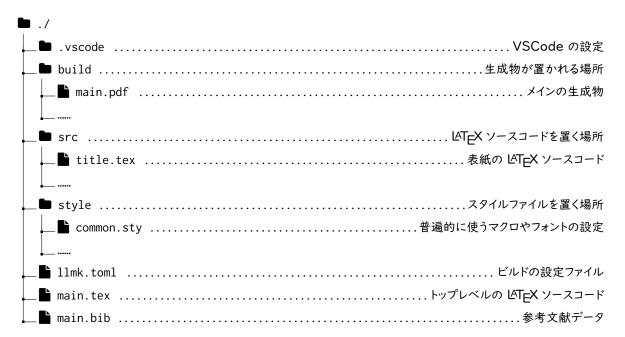
ビルドには $IImk^{*}$ を使っています。IImk のおかげで LAT_{EX} コードのビルド手順を TOML 形式で記述することができます。その他にもなんか色々とデフォルトの設定をモダンなかんじにしてくれてます。 LAT_{EX} に詳しくない筆者は取り敢えず IImk を使って LAT_{EX} 詳しい人が選んだモダンな設定におまかせしています。

この プロジェクトをビルドするにはプロジェクトディレクトリで

\$ 11mk

を実行してください. Ilmk が ./llmk.toml に基づいて ./main.tex をコンパイルしてくれます.うまくいけば ./build/main.pdf が生成されるはずです.

2 ディレクトリ構成



3 フォントなど

地の文には UD デジタル教科書体を使っています.

あのイーハトーヴォのすきとおった風、夏でも底に冷たさをもつ青いそら、うつくしい森で飾られたモリーオ市、郊外のぎらぎらひかる草の波。

----宮沢賢治『ポラーノの広場』より----

The quick brown fox jumps over the lazy dog

数式には STIX2 フォントを使っています.

^{*} https://github.com/wtsnjp/Ilmk

$$\int_0^{\pi} \sin x \, dx = 2$$

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2} = \frac{\pi^2}{6}$$
(1)

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2} = \frac{\pi^2}{6} \tag{2}$$

プログラムのフォントには inconsolata を使っています.

インラインコードの例: hoge + fuga = piyo

複数行にまたがるコードの例:

```
</> bash
   fun main() {
2
       let a = 12
3
       let b = 30
       a + b
     }
```

中間値の定理

区間 $[\alpha,\beta]$ で連続な関数 f(x) について, $f(\alpha)$ と $f(\beta)$ の間にある任意の実数 c に対して,ある実数 $k \in (\alpha, \beta)$ を f(k) = c を満たすようにとることができる

中間値の定理

区間 $[\alpha,\beta]$ で連続な関数 f(x) について, $f(\alpha)$ と $f(\beta)$ の間にある任意の実数 c に対して, ある実数 $k \in (\alpha, \beta)$ を f(k) = c を満たすようにとることができる

中間値の定理

区間 $[\alpha,\beta]$ で連続な関数 f(x) について, $f(\alpha)$ と $f(\beta)$ の間にある任意の実数 c に対して, ある実数 $k \in (\alpha, \beta)$ を f(k) = c を満たすようにとることができる